

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



佐賀県有田町 が応援するふるさと名物

有田焼 ～400年の歴史を、未来へ繋ぐ～

- ◎有田焼
- ◎重要伝統的建造物群保存地区
- ◎有田陶器市
- ◎町歩きツアー





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

佐賀県有田町

地域の
プロフィール

沿革・歴史・文化



佐賀県の西部に位置する有田町は、谷あい広がる小さな町です。人口は約20,000人、面積は65.85平方キロメートルで、2006年3月1日に、旧有田町と旧西有田町が合併し新しい「有田町」が誕生しました。美しい景観を誇る田園地帯や、黒髪連山など豊かな自然に恵まれた町です。

やきものの町としての有田の歴史は、豊臣秀吉の朝鮮出兵にさかのぼります。その折、朝鮮半島から連れて来られた陶工の李参平らによって、17世紀初めに有田の泉山で、磁器の原料となる良質の陶石が発見され、日本で初めて“磁器”が焼かれました。

1630年代には、本格的な磁器生産が行われるようになった有田では、佐賀藩の厳しい管理の下、現在の窯業スタイルに近い分業化による生産体制が築かれます。

以来、谷あいに「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定、2017年12月8日には、有田の文化的景観が日本イコモス国内委員会より「日本の20世紀遺産20選」として選出されました。

また、毎年、4月29日から5月5日までのゴールデンウィーク期間中、有田陶器市が開催されます。町内一円にわたって店が並び、九州を中心に、全国から100万人以上が来場されます。

有田町では、これらの伝統と歴史、豊かな観光資源を生かし、多くの観光客が国内外から訪れる町づくりに取り組んでいます。



泉山磁石場



重要伝統的建造物群保存地区

1

有田焼

◆世界に誇る「有田焼」

佐賀県有田町を中心に焼かれる磁器のことを「有田焼」といいます。17世紀初めにこの地で焼かれるようになった磁器は、有田から10キロほど離れた伊万里港から国内外に出荷されたため、積み出し港の名をとって「伊万里」とも呼ばれています。

江戸時代の有田焼は、さまざまに変遷し、その製造時期や様式から「初期伊万里様式」「柿右衛門様式」「金襴手様式」などに大別されます。また、これとは別に、献上用として焼かれた磁器もあり、伊万里大川内山の藩の御用窯で作られたものを「鍋島様式」、皇室に納められたものを「禁裏様式」と呼んでいます。

硬く丈夫で、透明感のある白磁に、藍色や赤・黄・金など鮮やかな色が繊細にほどこされているのが特徴です。有田の磁器は17世紀後半から18世紀後半にかけて、国内はもとより欧州を主とした海外へも多く出荷されるようになり、その繊細で優美な作風が欧州の王侯貴族を魅了しました。

400年もの間、その伝統と技術が脈々と受け継がれてきた有田焼は、今でも多くのやきものファンに愛されています。

2

重要伝統的建造物群保存地区

◆有田内山の「重要伝統的建造物群保存地区」

有田町の東部に位置する「内山」地区の、大通り沿いを中心とする約2kmの範囲が伝統的建造物群保存地区になります。

この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に佐賀県では初の、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

やきものを中心に栄えてきた有田内山には、江戸時代から明治、大正、昭和の初期にわたり、その時代を代表する漆喰壁の町屋や洋風建築等が建てられ、九州でも最も質が高いといわれる変化に富んだ独特の町並みを形成しています。この有田内山の町並みは、各時代の常に新しいものを受け入れつつ発展してきたことが要因とされ、全体として多様性に富んだ表情を持っていることが大きな特徴です。

城下町、商家町、山村集落等の他の重要伝統的建造物群保存地区では、時代の流れとともに、当初の用途としてはその役割を終えた地域もありますが、有田内山は、有田焼という伝統産業が現在でも継承され、その町並みが息づいています。

イコモスが選出する「日本の20世紀遺産20選」に選出された、有田の文化的景観の主な構成遺産の一つになっており、文化遺産の保護、継承に取り組んでいます。

3

有田陶器市

◆ゴールデンウィークの一大イベント「有田陶器市」

1896年に香蘭社社長・九代深川栄佐衛門と有田磁器合資会社社長田代呈一を中心に「陶磁器品評会」が始まり、1915年より陶磁器品評会に併せて、地元の陶磁器店が在庫品や等外品の「蔵ざらえ販売」を始めた事をきっかけに陶器市が始まりました。

第二次世界大戦後には、半端モノや傷モノ、時には有田焼以外の品物を含めて豊富に並べて売るといったスタイルが確立され、客側の目利き、店側との駆け引きが楽しめるイベントとして、現在も続いています。

4月29日～5月5日の会期中は、町内一円にわたって店が並び、いつもは静かなやきものの里が、九州を中心に、全国から100万人以上の人出でにぎわいます。

磁器製品の安さ、豊富さ、そして独特の活気が、毎年多くの人々を有田へと誘います。



毎年100万人以上が訪れる有田陶器市

ふるさと名物の内容

ふるさと
名物の活用

町歩き

◆町歩きツアー

日本磁器誕生の地として、400年間、有田焼産業の町として歴史を育んできた有田町。産業の中心として栄えた内山地区は、その歴史を物語る「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されています。

この生きた博物館とも言える美しい町並みを中心として、町内の観光資源を活用した様々な町歩きツアーを実施しています。

有田焼の歴史や伝統を学び、有田焼の器で食事をし、製造行程を見学し、お買いものをするという有田を満喫できるようなツアーをはじめ、内山地区の風情ある町屋をガイドと巡る町屋歩き、泉山磁石場、樹齢1000年の大公孫樹、トンバイ塀等を巡るパワースポット巡りなどを企画しています。

有田町はやきものに関わる数多くの地域資源を有しており、そうした資源を、観光など最大限に生かしたまちづくりに取り組んでいます。



風情あるトンバイ塀の裏通り



樹齢1000年の泉山大公孫樹



磁器製の大鳥居がある陶山神社



ガイドと巡る町歩きツアー

有田町の取り組み

1

資金貸付制度

◆中小企業振興資金貸付制度

有田町で事業を営む中小企業者へ運転資金と設備資金を融資することにより、中小企業者の振興と地場産業の活性化を図ります。

町内に新たに店舗を構えたり、工場を増設する方など、創業支援についての相談も受け付けます。

2

有田焼で乾杯

◆有田焼の酒器による乾杯を促進する条例の制定

400年の歴史を誇る有田焼、特に有田町内産の酒器による乾杯の文化を広めることにより、陶磁器産業はもとより、酒造業その他の関連産業の発展及び郷土愛の醸成を図り、有田焼による乾杯文化の普及を通じた有田町の歴史及び文化への理解の促進に寄与することを目的に制定されました。

町は、有田焼による乾杯とその普及及び促進に積極的に取り組むよう努めます。



3

有田焼未来プロジェクト

◆官民一体となった有田焼の振興・発展

2016年に日本磁器誕生・有田焼創業400年を迎えた有田町。次の50年、100年に繋がるよう、事業者により海外も含めた販路開拓や展示会出展等が積極的に行われています。

また、窯業の後継者の育成をはじめ産地が抱える課題解決に向けた取組や産地に必要な共同事業を行いながら、将来にわたり有田焼の振興と地域経済の発展に寄与するとともに、有田焼の魅力を未来に繋げていくことを目的とし「有田焼未来プロジェクト」が発足しました。

有田焼に関するPRや販路開拓、後継者育成等さまざまな事業に取り組み、官民一体となった有田焼の振興と発展を目指します。

